

# 令和4年度 上山市いじめ問題専門委員会 要旨

日時 令和5年2月27日（月）午後7時00分～

場所 上山市役所 302会議室

## 1 開会

## 2 上山市教育委員会あいさつ

## 3 報告（座長 委員長）

### （1）令和3年度及び4年度2期までのいじめに関する調査結果について

・別紙参照

#### 【質疑応答等】

- 「パソコンや携帯電話で誹謗中傷や嫌なことをされる」という項目が想像する以上に少ない。パソコン等のいじめの対応について、どのような形で把握されたのか。また機器をどう管理しているのか。「いじめ未然防止の取組」ということで、学校いじめ防止対策組織がどの学校にもあるはずだが、そこがいじめ未然防止取組の中心として全く出てきていないのは如何か。

【回答】タブレットについては、児童生徒に1台ずつ、セキュリティ管理を含め使用については十分管理把握できる状態だ。ただ、個人で所有しているスマホとかタブレットについては非常に難しいところがある。2つ目は、いじめの組織を学校ごと明記して、その組織を生かしていくということを特に意識して進めている。いじめ対策組織について、生徒指導担当者会の中で見直しをしている。

- よりみんなでやってみたいという気持ちになるようなものを提示しないと進んでいかないのではないか。地域があって、そこのお子さんが集ってきて学校を作っているのだから、その構造からも引っ張り出すような形を作らないとうまくいかないだろう。生きていて楽しいと思える社会にしないと難しい。

- 楽しい授業とか楽しいクラスでは、いじめというのは自然に少なくなっていく。子どもたちも先生方も、それを取り囲む地域の大人たちも保護者も、自分たちの生活をよりよくするために、進んで楽しく参加したりできるようにするという視点を忘れずに具体策を作るということは非常に大切なことだ。上山市では、今後のいじめ対策で、学校、生徒、保護者、地域に何か働きかけをする時は、そういう視点を持ちながら考慮

していただけると非常に有難い。

- 嫌な人間関係を乗り越える力をつけるのも教育の役割として1つある。いじめを生まない人間関係作りにおける教育の役割を、いじめ防止、未然防止の取り組みの中にも踏み込んでいってもよいのではないか。
- いじめ防止対策を作るのは、その当事者である子どもたちが主体となって作るべき。自立性が育まれて、勉強、教育上の効果が上がる。
- 中心に置くのは愛他的な精神。みんなが成長して、みんなが成長するためには、みんなが1つのことを考えて、社会で生きていることを実感させる方がよっぽどいい社会になっていくと思う。
- どんな障害を持つ人でも社会の構成員として認めて、多様性を認めて、社会を形作っていく社会をクラスで出来ると、非常に楽しいクラスになると思う。

(2) 令和4年度のいじめ重大事態に関する報告

・別紙参照（資料不開示）

【質疑応答等】個人情報に関する部分なので、以下議事録不開示

4 協議（座長 委員長）

(1) 令和5年度のいじめ防止対策取組案について

・別紙参照

【質疑応答等】

●先程の巡回指導は、8月というのは、今年の8月か。来年か。

【回答】令和5年8月を考えている。

5 連絡

6 閉会